



安曇野屋敷林サポーター通信

第31号

発行日/ 2020年3月25日

編集・発行/ 屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

事務局/ 安曇野市商工観光部観光交流促進課 ☎0263-71-2053

URL/ keikan-azumino.net

活動報告 安曇野屋敷林フォーラム2020

2月16日に穂高交流学習センターみらいにおいて、通算10回目となる「安曇野屋敷林フォーラム2020」が開催されました。第1部は信州大学の梅干野成央准教授が「安曇野の民家と景観」をテーマに講演。長野県北部は茅葺民家、南部は板葺民家が明確に分布し、安曇野は混在する地域であること、また、信州大学の研究室の学生との共同研究の内容について紹介がありました。

続いて今年度で2回目となる「安曇野ふるさと遺産2019」の認定式と概要説明があり、「烏川扇状地と西山山麓の里山文化」と「天産の恵みと新屋の屋敷林」の2地域が認定されました。また、名誉会員である高見沢賢司氏に対して、感謝状を贈呈しました。

第2部のパネルディスカッションのテーマは「ふるさと遺産を引き継ぐために」。百瀬新治氏(岩原の自然と文化を守り育てる会)、降旗政人氏(三郷郷土研究会)、那須野雅好氏(安曇野市文化課長)、場々洋介氏がそれぞれの立場で議論を交わしました。終わりに、梅干野准教授から「安曇野ふるさと遺産」の取り組みに賞賛のコメントをいただきました。また、去年の講師の笹本正治氏(長野県立歴史館長)からも来賓として祝辞をいただき、感謝申し上げます。



活動案内 第30回ふるさとウォッチングin安曇野

30回目のふるさとウォッチングは4月29日(祝・水)、豊科・真々部地区。戦国時代に武田信玄の軍事拠点として築かれた真々部城館と穂高・大町に通じるその軍用道路「武田の棒道」を中心とする城下町・市場町であった真々部(殿村、町通り)は、当時、七寺八小路を擁する安曇野南部の政治・経済・文化の一大中心として繁栄しました。

屋敷林や生垣が残る美しい街並み、蔵や庭園が残る古民家、土塁や濠が残る真々部城館の遺構、網の目状に流れる小堰とそのせせらぎ、由緒ある金龍寺・専念寺と石仏、道祖神・二十三夜様・庚申様・三峯様など路傍に祀られた多くの神々、産土神として鎮座する諏訪神社、人々の病氣治癒の願いを背負い生き仏となった行人様など、真々部ならではの様々な魅力を満喫しながら歩きましょう。【別紙参照】

活動報告 千国街道保高宿さんぽ

安曇野まちなかカレッジとの共催事業として、2018年度に「安曇野ふるさと遺産」に認定された千国街道保高宿さんぽを開催しました。当日は小雨の降るあいにくの天候でしたが、8名の方に参加して頂き、楽しいまち歩きができました。

コースはまず穂高神社に参拝、まち歩きの安全をお願いし、塩の道道祖神から路地裏の懐かしい風景や、黒部ダムの遺構でもある珍しい火の見櫓を見学。老舗の丸山菓子舗付近で、中世の宿場の特徴である北の枡形(鍵の手)にある道祖神などの石造物を見て、昔の人の素朴な信仰に思いを馳せました。帰路は旧街道沿いのまちなみを歩きながら、蔵造の民家や松沢求策の生家でもある旧若松屋の内部を見学。駅前通りとの交差点近くにある南の枡形では普段は見ることのできない、十王堂の内部も見学しながらゴールしました。

今回は地元参加者のご好意で、北の枡形にある歴史ある旧理髪店の内部も見せていただき、充実したまち歩きができました。

ビューポイントあづみの～安曇野屋敷林ギャラリー

「ビューポイントあづみの」に投稿された、季節毎の安曇野の屋敷林を紹介する「安曇野屋敷林ギャラリー」。今回は花が美しい春の屋敷林風景です。

風景投稿サイト「ビューポイントあづみの」 <http://viewpoint.nagapic.jp/>



北アルプスと桜～安曇野市明科光 長峰山

本棟造と芝桜～安曇野市豊科南穂高



【屋敷林サポーター】

安曇野の屋敷林の保全活用を目的に、2011年度に立ち上げた「屋敷林サポーター」。2018年度の総会で規約を改正し、サポーターの会費は他の活動費と区分し、全額を将来創設予定の基金準備金として積立てています。

2019年度の「屋敷林サポーター」の会員期限は今月末で終了となります。次回の会報発送時に2020年度会費を請求させていただきますので、引き続き会員継続と活動へのご協力をお願いします。